

“やってみる”の実現に向けて③

地域内では、2019年度に松之山自治振興会が開催した「松之山やってみる会議」の中で生まれた、“やってみる”に取り組むための、“話し合い”が始まっています☆

※“やってみる”とは、次の取組みのことです。

- ①課題解決に繋がる取組みを小さくてもいいので実行する。
- ②地域を支える活動が継続できるよう、やり方を見直してみる。



地域支援員

新聞

7月号
2020.7.10

松之山地区

「大地の芸術祭作品誘致 有志の会(仮称)設立」

6月18日(木)、松之山公民館に有志が集まり、会の体制や作品誘致のアイデアについて話し合いました。

6月27日(土)には、「まちあるき」をしました。話し合いで出されたアイデアの実現性について、現地を確認しました。その後の意見交換で「今ある景観をこわさずPRできる作品」「イベントなどでお客様をおもてなし」など、作品誘致に向けたポイントを整理しました。今後も作品誘致に向け、市などと調整していく予定です。



松里地区

「地区盆踊りリニューアル」

6月3日(水)に、地区協議会、公民館分館、若島会、深山会の代表者が集い、「盆踊りリニューアル」の検討会を行いました。松里地区協議会では、行事を賑やかで楽しい場にするのを地域の元気の一つにしたい、という想いを込めて、話し合いに取り組みます。

これまでに天水越、上湯で、住民の方から課題や要望などをお聞きしました。お聞きしたご意見は、盆踊り実行委員会にお届けし、新しい運営方針の参考にさせていただきます。今年度開催するか中止にするかについては、7月の実行委員会で判断する予定です。

天水越集落

「安心安全な地域づくり」

5月27日(水)、今年度松里地区協議会が取り組むことになった「盆踊りリニューアル」についての、参考意見をお聞きしました。3月の班ごとの課題聞取りの際にも「地域行事のあり方は“少ない人数でも安心安全に暮らしやすい地域づくり”にとって大切な視点である」という声がありました。参加者からは、社会情勢の変化による行事の変遷や、行事への想いなどをお聞きしました。6月は話し合いができませんでしたが、7月以降は話し合いを継続していく予定です。



やってみる新聞を発行しています。

やってみる会議で生まれた取組みの話し合いを行っている集落、地区、団体限定で、「やってみる新聞」を発行しています。

取組みに関係するみなさまと「話し合いの進捗状況」を共有するための内容になっています。

少ない人数でも暮らしやすい地域づくりについて、小さな“やってみる”を積み重ねることから、課題対策に取り組むお手伝いをさせていただきます。



現在進行中の話し合いのお手伝い☆

“やってみる会議で生まれた取り組みの他にも、2018 年度に実施した全住民アンケート結果などから見えてきた課題などについて、以下のようなテーマの話し合いのお手伝いをさせていただいています。

住民主体となった取り組みであれば、地域内の集落や地区、団体等の話し合いのお手伝いができます。お気軽にお問合せください☆

お問い合わせ

十日町市役所松之山支所
地域支援員 本山・佐藤
☎ 596-3131
FAX 596-3515

①地域おこし協力隊の受入れ体制づくり

十日町市から、協力隊受入れ業務を受託した（一社）里山プロジェクトでは、コロナ禍においても移住促進の機運を下げない取り組みとして、「オンライン移住相談会」を行っています。協力隊受入れを行うには、まだ社会情勢が落ち着かない状況ではありますが、協力隊を要望している地域と情報共有しながら、できる準備を行っています。

「お試し協力隊制度」（協力隊希望者が、要望集落で2泊3日以上のご生活体験をして、マッチングを図る制度）についても、松之山地域らしい取り組みを検討しています。

協力隊受入れ体制づくりについては、関係機関との調整などが必要です。協力隊募集に関心のある集落・地区の方は、松之山支所地域振興課または支援員まで、お気軽にお問い合わせください。



②湯鳥大運動会見直し検討委員会

コロナ禍において協議が中断しておりましたが、7/9（木）18時～松之山地区スポーツ推進委員会を経て、委員会の協議を再開します。これまでの事前協議に出された意見等をふまえ、少ない人数でも、子どもと高齢者が楽しめるような、新しい運動会のあり方を検討していきます。



③棚田地域振興法の協議会認可に向けて

松之山指定棚田地域振興協議会（4地区：松之山、三省、松里、浦田）の認可に向けて、書面決議などを経ながら活動計画書を作成、市へ提出しました。今後は、国から認可の連絡が入り次第、構成員みなさまにお知らせいたします。（布川地区は単独で指定棚田地域振興協議会を設立しています。）



松之山町史を 読み解きながら

世界的な豪雪地帯である松之山ですが、除雪重機としてブルドーザーを導入したのは昭和34年（1969年）のことでした。また、冬期孤立集落が解消されたのは、昭和50年代になってからでした。この豪雪地において、除雪体制がない時代に1万人の人口を維持していた地域力には、スゴイ！という言葉葉しか見つかりません。

しかし除雪体制が整う一方で、昭和30年代後半の高度経済成長期から始まった人口流出は、歯止めが効かないまま現在に至ります。

さて、コロナ禍を経て、社会情勢が一変しました。閉塞感などがまだ拭えない状況ではありますが、こんな時代の狭間だからこそ、松之山ならではの暮らしの魅力や底力を改めて感じた方は少なくないのではないのでしょうか。松之山暮らしには希望がある☆そんな気がしませんか？